

第 28 期 事 業 報 告

自 令和 7 年 4 月 1 日

至 令和 8 年 3 月 31 日

株式会社 札幌ドーム

札幌市豊平区羊ヶ丘 1 番地

(添付書類)

第 28 期 事 業 報 告

(自 令和7年4月1日)
(至 令和8年3月31日)

1 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその成果

当事業年度における北海道経済は、継続的な高水準賃上げにより所得環境に改善が見られたものの、物価高の下押し圧力が残る中で個人消費は緩やかな持ち直しにとどまりました。また、観光需要は円安を背景としたインバウンドの増加が続き、宿泊・飲食消費を通じて道内経済を下支えしたものの、物価高や宿泊費の高騰により国内客が減少したことから、来道者数全体では前年度を下回る動きとなりました。

このような情勢のもと、当社はドーム開業30周年を迎える2031年に向けてのありたい姿として掲げた長期ビジョン『SV-31』の実現に向けて、「主催者連携による利益最大化」「多様な価値や変化への対応」「社員の成長・スキルアップ」「親しみのある地域のシンボル」「環境にやさしい企業」「新たな市民文化の共創」という6つの基本戦略からなる経営方針と、新体制発足後に新たに定めた経営プラン『DOME ReSTART PLAN～Dreams Move Again』のもと、事業活動を進めてまいりました。

貸館利用につきましては、北海道コンサドーレ札幌戦ではJ2リーグ17試合、J2・J3百年構想リーグ2試合、天皇杯1試合により計20日（前期比2日減）、その他プロスポーツはダーツ大会開催により1日（前期比3日減）、コンサートは6アーティストにより計11日（前期比5日増）、コンベンションは「The 62nd OSEAL FORUM in SAPPORO」や「Japan Mobility Show Sapporo 2026」などの開催により計26日（前期比4日減）、自主・共催イベントは「サッポロモノヴィレッジ」等により計16日（前期比6日増）、アマチュアスポーツ大会は計32日（前期比4日増）、その他「APEX LEGENDS™ GLOBAL SERIES YEAR 5 CHAMPIONSHIP」の4日などを含めました当事業年度のイベント利用日数は、前期を下回る合計119日（前期比10日減）となりました。

来場者数につきましては、イベント来場者は前期を上回る120万3千人（前期比8.2%増）となりました。その他の来場者数につきましては、展望台・ドームツアー利用者は8千人（前期比7.9%減）、一般市民利用の草野球・サッカー練習場・トレーニングルーム等利用者は3万9千人（前期比2.8%減）、キッズパーク・諸室・ドームスノーゾーン、スケートボードエリア等の利用者は5万4千人（前期比119.8%増）となり、当事業年度の総来場者数は合計130万6千人（前期比10.0%増）となりました。

また、イベント利用日数に加え、設営撤去、練習、草野球利用および場面転換日を含めま

した総利用日数は、合計259日（前期比2日増）となり、稼働率は71.0%（前期比0.6ポイント増）となりました。

6つの基本戦略における具体的な取り組みといたしまして、「主催者連携による利益最大化」では「いくぞJ1！昇格応援プロジェクト」として飲食売上の一部を株式会社コンサドーレ様に還元しJ1昇格を支援するとともにキャンペーンや告知で連携を強化したほか、「さっぽろMICE東京プロモーション」を主催し東京の企業を対象として札幌市内の3施設合同でMICE誘致を実施いたしました。「多様な価値や変化への対応」では従来のゆきひろばをDOME Snow Zoneとしてリニューアルしインバウンド向けのコンテンツを創出したほか、旅行業免許の取得やドローンスクール開校の手続きを行うなど、新規事業の準備を進めました。「社員の成長・スキルアップ」では会社事務所のレイアウトを変更しフリーアドレス化により部署間の連携を強化したほか、代表取締役社長と全社員の個別面談（1on1ミーティング）や新規事業に関するプロジェクトへの参加を通じてアントレプレナーシップを育み、成果主義を取り入れた人事考課制度の検討を進めました。「親しみのある地域のシンボル」では「JALさっぽろスノースポーツパーク」を継続開催し、さっぽろ雪まつりとの連携を図ったほか、札幌国際大学との連携授業の実施や実験施設ZOKZOKとのコラボレーションによる展望台での彫刻展示など地域と連携した取り組みを行いました。また、株式会社レバンガ北海道様のバスケットゴール設置プロジェクトの第1号目として、気軽にバスケットボールを楽しめる屋外3x3コート「LEVANGA COURT」を敷地内にオープンし、スポーツを通じた地域の居場所づくりに貢献いたしました。「環境にやさしい企業」では当社の生物多様性の取り組みが評価され環境省の「自然共生サイト」に認定されたほか、「サステナKIDSアワード」への参加を通じて市内の小学生への啓蒙を行いました。「新たな市民文化の共創」では国際的なeスポーツイベントの継続開催を通じてゲームのまちとしての市民文化の醸成に寄与したほか、秋季の花火大会や積雪のある時期のマラソン大会の継続開催、サバイバルゲームイベントの新規開催など、多様なイベントを開催してまいりました。

当事業年度の業績といたしましては、大規模コンサート利用日数の増加、貸館に伴う受託業務売上の増加、物価高騰による札幌市有施設の料金改定に伴う利用料金収入の増加などにより貸館事業・商業事業・駐車場事業で大幅な増収となりました。また、広告事業はネーミングライツの売上が年間を通して計上されたことから大幅な増収となりました。なお、販売費及び一般管理費についても物価高の影響や社員数の増加、新規事業への投資などにより増加したものの、計画を上回る大幅な利益増が見込まれたことから、スポーツの普及振興等に活用いただくため札幌市に対して現金40百万円を寄附いたしました。その他、特別利益として投資有価証券売却益を計上したほか、特別損失として、賃貸事務所用のオフィス棟について今後の回収可能性が認められないため、減損損失を計上いたしました。

以上の結果、当事業年度の売上高は22億8百万円（前期比23.6%増）となり、営業利益は2億11百万円（前期比2億67百万円増）、経常利益は2億85百万円（前期比556.4%増）、当期純利益は1億54百万円（前期比260.2%増）と大幅な増収増益となりました。事業別売上高の状況は、次のとおりであります。

<貸館事業>コンサート利用日数の増加、受託業務売上の増加、利用料金改定などにより、貸館事業の売上高は14億20百万円（前期比14.3%増）となりました。

<商業事業>コンサート利用日数の増加に伴う物販売上などにより、商業事業の売上高は3億15百万円（前期比79.4%増）となりました。

<観光事業>DOME Snow Zoneのインバウンド向けコンテンツ化などにより、観光事業の売上高は5百万円（前期比37.8%増）となりました。

<その他事業>ネーミングライツ売上の通年計上や利用料金改定などにより、広告・駐車場事業が増収となり、これらを合算いたしましたその他営業収益は4億68百万円（前期比28.2%増）となりました。

(2) 設備投資および資金調達の状況

当事業年度におきましては、オフィスレイアウト更新工事（7百万円）や広告枠新設（1百万円）など、総額9百万円の設備投資を行いました。

また、開業以来、利用者からの多様な意見や要望などにに基づき実施してまいりました施設の改良工事や備品購入等につきましては、貸出用備品の更新（4百万円）や館内飲食売店整備（7百万円）など、総額17百万円の工事等を実施し、札幌市に寄付いたしました。

なお、これらの設備投資・改良工事等につきましては、すべて自己資金でまかっております。

(3) 重要な親会社等の状況

① 親会社等の状況

当社の親会社等である札幌市は、当社の議決権比率55.0%を保有しております。

② 親会社等との間の取引に関する事項

イ. 当該取引をするにあたり当社の利益を害さないように留意した事項

親会社等との取引をするにあたっては、当該取引の必要性及び取引条件が第三者との通常の取引と著しく相違ないこと等に留意し、合理的な判断に基づき決定しております。

ロ. 当該取引が当社の利益を害さないかどうかについての取締役会の判断及びその理由

親会社等との重要な取引については、独立性確保の観点等も踏まえ、独立社外取締役が出席する取締役会において多面的な議論のうえ、実施の可否を決定しており、当該取引が当社の利益を害するものではないと判断しております。

ハ. 取締役会の判断が社外取締役の意見と異なる場合の当該意見

該当事項はございません。

(4) 対処すべき課題

第29期（令和8年度）は指定管理者制度における第5次指定期間（5年間）の4年目となり、次期指定期間も見据えた重要な年となります。これまでのノウハウを生かした管理運営を堅持しつつ、大和ハウス プレミストームのブランド価値を最大化させるための施策を積極的に展開し、利用者満足度の向上と地域活性化に寄与する施設運営に邁進する必要があります。

このような状況下において、当該事業年度は、長期ビジョン『SV-31』および新経営プラン『DOME ReSTART PLAN～Dreams Move Again』の実現に向け、新たに策定した『中期事業計画2030&アクションプラン2026』のもとで、当該事業年度の基本方針として「既存事業の収益向上」「新たな収益モデルの確立」「ブランド価値の向上（地域シンボル化の推進）」「Valueの定着」の4つの方針を掲げ、事業活動を推進してまいります。

「既存事業の収益向上」では、貸館事業において高収益イベントや平日イベント等の新規イベントセールスを強化する一方で、すでにイベントを開催いただいている主催者様と更なる連携を図り集客数や開催日数の増加による収益向上にも取り組んでまいります。また、札幌市内の他のMICE施設との連携を主導し、札幌市へのMICE誘致を推進いたします。飲食事業においては、北海道らしさなど、特徴や魅力のある飲食展開を行い、客単価と収益性の向上に取り組んでまいります。「新たな収益モデルの確立」

では、二年目となるDOME Snow Zoneのプロモーションを強化し、冬のインバウンド需要を確実に取り込むことで訪日客が市内・道内に滞在・周遊する流れを創出することを目指していくほか、ドローンスクールの開校をはじめとするドローン事業への挑戦により、大和ハウス プレミストドームをドローン実装の拠点へと進化させ、北海道・札幌を日本のドローン先進地域へと押し上げる取り組みを推進してまいります。「ブランド価値の向上（地域シンボル化の推進）」では、国際的なeスポーツイベントの継続開催のほか、フェス型音楽ライブを二年ぶりに開催するなど、新たな市民文化となりうるドーム開催イベントの定着を図ってまいります。また、市内大学との連携授業により非イベント日のドーム活用をテーマとした企画の実現を目指すほか、『ドーム居場所づくりプロジェクト』の活動を通じ、居場所のない子どもたちを支援し、社会課題の解決にも取り組んでまいります。さらに、大和ハウス プレミストドームが地域のシンボルとして末永く親しまれるよう施設の愛称のさらなる定着を図るとともに、敷地内における生物多様性の取り組みについても市民の皆様の理解が深まるよう発信を強化してまいります。「Valueの定着」では、OPEN、FLAT、CREATIVE、CHALLENGE、CUSTOMER CENTRIC、SIMPLEの6つの価値観の定着を目指し、人事考課制度の改正に着手し社員の成長を促していくほか、新規事業に必要なリスキリングを推奨するとともに、社員提案型のプロジェクトを立ち上げアントレプレナーシップの醸成を図ってまいります。また、生成AI等のデジタル基盤を活用した業務効率化にも取り組んでまいります。

大和ハウス プレミストドームは、本年6月2日に開業25周年を迎えました。当社は今、市民の皆様と共に歩んできたこれまでの歴史を礎に、地域共生企業としてさらなる価値創造のステージへと踏み出しております。魅力溢れる施設づくりを通じて新たな感動を提供し、スポーツや文化の枠を超えて地域経済に力強い循環をもたらすべく、全社一丸となって挑戦を続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、当社の未来に向けた取り組みを温かく見守っていただき、引き続き力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(5) 財産および損益の状況

(単位：千円)

区 分 \ 期 別	第 25 期 (令和4年度)	第 26 期 (令和5年度)	第 27 期 (令和6年度)	第 28 期 〔当 期〕 (令和7年度)
売 上 高	2,976,343	1,271,770	1,787,505	2,208,684
営 業 利 益	70,375	△672,517	△56,144	211,479
経 常 利 益	193,994	△560,781	43,514	285,631
当 期 純 利 益	120,496	△651,152	42,984	154,850
1 株 当 たり 当 期 純 利 益	6,024円80銭	△32,557円63銭	2,149円22銭	7,742円50銭
総 資 産	4,010,095	3,127,642	3,292,755	3,626,759
純 資 産	3,218,635	2,547,482	2,590,467	2,743,942

(注)1. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数により算出しております。

(注)2. 営業利益、経常利益、当期純利益および1株当たり当期純利益の(△)については、損失を表しております。

(6) 主要な事業内容

事 業 名	事 業 概 要
貸 館 事 業	アリーナ・諸室等のイベント利用への貸出およびイベント運営サポート 草野球、サッカー練習場およびトレーニング室の一般市民利用管理
商 業 事 業	ドーム内の飲食物販事業の管理運営
観 光 事 業	ドーム展望台およびドーム見学ツアーの運営
そ の 他 事 業	チケット事業、札幌ドームメンバーズクラブの運営、駐車場事業、広告事業など

(7) 主要な営業所

本社 札幌市豊平区羊ヶ丘1番地

3 会社役員に関する事項

(1) 取締役および監査役の状況

地 位	氏 名	社外役員の重要な兼職の状況、主な活動状況等
代表取締役社長	阿 部 晃 士	
取締役副社長	加 藤 修	
専務取締役	北 川 憲 司	
取 締 役	落 合 重 之	
取 締 役	西 出 幸 広	
取 締 役	紫 藤 正 行	札幌商工会議所 特別顧問 太宝電子株式会社 代表取締役 北海丸善運輸株式会社 代表取締役 大黒自工株式会社 代表取締役 ダイコク交通株式会社 取締役会長 当事業年度に6回開催した取締役会のうち6回に出席し、議案審議等に必要な質問や発言を適宜行っております。
取 締 役	新 沼 彰 人	北海道電力株式会社 取締役 常務執行役員 当事業年度に6回開催した取締役会のうち4回に出席し、議案審議等に必要な質問や発言を適宜行っております。
取 締 役	八 木 渉	北海道瓦斯株式会社 常務執行役員 総務人事部担当 総務人事部長 北ガスサービス株式会社 代表取締役社長 当事業年度に6回開催した取締役会のうち6回に出席し、議案審議等に必要な質問や発言を適宜行っております。
取 締 役	佐保田 昭 宏	株式会社北海道新聞社 執行役員企画室長 社外取締役就任後に開催した取締役会5回のうち4回に出席し、議案審議等に必要な質問や発言を適宜行っております。
取 締 役	牧 野 成 寿	サッポロビール株式会社 上席執行役員北海道本社代表兼北海道本部長 社外取締役就任後に開催した取締役会5回のうち5回に出席し、議案審議等に必要な質問や発言を適宜行っております。
取 締 役	木 村 平	株式会社電通北海道 代表取締役社長執行役員 当事業年度に6回開催した取締役会のうち6回に出席し、議案審議等に必要な質問や発言を適宜行っております。

地 位	氏 名	社外役員の重要な兼職の状況、主な活動状況等
監 査 役	池 田 浩 之	札幌商工会議所 統括調査役 当事業年度に6回開催した取締役会のうち6回、6回開催した監査役会のうち6回に出席し、議案審議等に必要な質問や発言を適宜行っております。
監 査 役	草 薨 金 矢	草薨金矢税理士事務所 所長 当事業年度に6回開催した取締役会のうち4回、6回開催した監査役会のうち5回に出席し、議案審議等に必要な質問や発言を適宜行っております。
監 査 役	権 平 宗 中	株式会社北洋銀行 執行理事公金・地域産業支援部長 社外監査役就任後に開催した取締役会5回のうち4回、監査役会4回のうち4回に出席し、議案審議等に必要な質問や発言を適宜行っております。

(注) 1. 取締役 紫藤正行、新沼彰人、八木渉、佐保田昭宏、牧野成寿、木村平の各氏は会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。また、監査役 池田浩之、草薨金矢、権平宗中の各氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

2. 監査役 草薨金矢氏は税理士の資格を有しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

3. 当事業年度中の取締役および監査役の異動は以下のとおりであります。

① 就 任

令和7年6月23日開催の定時株主総会において、新たに阿部晃士氏、加藤修氏、北川憲司氏、佐保田昭宏氏、牧野成寿氏が取締役に、権平宗中氏が監査役に選任され、就任いたしました。

② 退 任

令和7年6月23日開催の定時株主総会終結の時をもって、山川広行氏、石川敏也氏、藤部安典氏、堀井友二氏、森本光俊氏は任期満了により取締役に、越田雄三氏は任期満了により監査役を退任いたしました。

(2) 取締役および監査役の報酬等の額

区 分	支 給 人 員	
取 締 役	6名	52,860千円 (うち社外取締役0名)
監 査 役	2名	5,760千円 (うち社外監査役2名、5,760千円)
合 計	8名	58,620千円

- (注) 1. 取締役への支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
2. 上記支給人員には、無報酬の取締役および監査役は含まれておりません。
3. 令和7年6月23日開催の定時株主総会において、取締役の報酬総額を一事業年度あたり55,000千円以内、平成14年6月26日開催の定時株主総会において、監査役の報酬総額を一事業年度あたり7,700千円以内と決議いただいております。

4 会計監査人に関する事項

(1) 会計監査人の名称 有限責任監査法人トーマツ

(2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額 4,800千円

(3) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

当社は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、監査役会が会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役が、解任後最初の株主総会におきまして、解任の旨およびその理由を報告いたします。なお、監査役会は、会計監査人の継続監査年数等を勘案し、再任もしくは不再任の決定を行います。

5 業務の適正を確保するための体制および当該体制の運用状況に関する事項

(1) 業務の適正を確保するための体制

当社は、平成18年6月9日開催の取締役会において、内部統制システム構築に関する基本方針を次のとおり決議し、これに基づき内部統制システムの充実に努めております。

なお、平成25年3月27日に一部改定を行っており、以下は最新の内容であります。

① 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

コンプライアンスの徹底および浸透を図るため、代表取締役社長を委員長とするコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス推進に関する方針等を定め、必要な教育研修等を実施するほか、コンプライアンス上の課題や具体的な問題事案への対応および再発防止策についての審議等を行う。また、コンプライアンス相談窓口を設置し、法令違反や企業倫理に反する行為等の早期発見および未然防止に努める。

② 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役の職務執行に係る文書（電磁的記録を含む）については、文書管理に関する社内規定を整備し、これに従って適切に保存および管理するものとする。また、取締役および監査役は、いつでもこれらの文書を閲覧することができる。

③ 損失の危険の管理に関する規定その他の体制

リスクマネジメントの強化および推進を図るため、代表取締役社長を委員長とするリスクマネジメント委員会を設置し、リスク対応に関する方針等を定め、会社が抱える多様なリスクを的確に把握し、その発生を低減するとともに、発生した場合の損失の最小化および早期復旧ならびに再発防止に努める。

④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

会社の組織、業務の分担、取締役の決裁権の範囲について定めた社内規定を整備し、取締役の職務の執行は、常に一定の指揮命令系統を通じて組織的、効率的に行う。

⑤ 取締役および使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

監査役は経営の意思決定や職務執行の状況を把握するため、取締役会その他の重要な会議に出席できるものとする。また、監査役は稟議書等の職務執行に係る文書を、いつでも閲覧することができ、必要に応じて取締役および使用人に説明を求めることができる。

⑥ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、代表取締役と定期的に会合を持ち、会社が対処すべき課題、監査役監査の環境整備の状況、監査上の重要課題等について意見を交換し、必要な要請を行うものとする。

(2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当事業年度における当社の業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は以下のとおりであります。

① コンプライアンスについて

コンプライアンス委員会設置規則に基づき、代表取締役社長を委員長とするコンプライアンス委員会を当事業年度において1回開催いたしました。また、委員長が指名する社内委員（事業本部長）を議長とするコンプライアンス推進会議を4回開催し、コンプライアンス上の課題や教育研修等についての協議を行っております。業務に必要な知識、技能習得のための各種講習会の受講や、新入社員研修におけるコンプライアンス教育の実施など意識向上に努めております。なお、当事業年度におけるコンプライアンス相談窓口への相談通報件数は0件でありました。

② 取締役の職務執行について

取締役の職務執行に係る文書は、取締役会規則および処務規則の規定に基づき、適正に保存し管理しております。取締役会は当事業年度において6回開催し、会社の組織等については、組織規則および処務規則等に基づき、適正かつ効率的な運営を行っております。また、代表取締役社長を議長とする経営会議は月1回、事業本部長を議長とする事業本部会議は月2回開催し、業務執行に係る意思決定プロセスの健全性と透明性を確保しております。

③ リスクマネジメントについて

リスクマネジメント委員会設置規則に基づき、代表取締役社長を委員長とするリスクマネジメント委員会を当事業年度において1回開催いたしました。また、委員長が指名する社内委員（部長）を議長とする3つの部会を設置しており、具体的なリスク対応策等を継続的に検討しております。

④ 監査役の監査体制について

監査役は当事業年度において監査役会を6回開催し、取締役会にも出席したほか、常勤監査役は月1回の経営会議および常勤の役員で構成する役員会に出席し、代表取締役との定期的な意見・情報交換を行っております。

6 会社の状況に関する重要な事項

特に記載すべき事項はありません。

~~~~~  
(注) 本事業報告中の記載金額について

記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。